

太田市立太田中学校

1年B組

丸山諒仁



お前は
近所を
知らない

まだ

古墳を知らず

埴輪を知らず

近所を知らず

歴史を知らず

1. きっかけ・目的

まさか近所に古墳なんて、と驚いた古墳時代を知らない僕がいた。それは、僕が近所の地図を眺めているときだった。家の近くに古墳があるという、衝撃の事実が判明した。

「みんなに伝えてみよう」「どんな歴史が詰まっているのか」

そう考え、まずは家族に聞いてみたが、誰も知らなかった。これをきっかけに、地域の人にこの古墳について「すごいな」ともっと知ってもらえる魅力を伝えたいと思った。

2. 疑問

- ・ この古墳はどんな古墳でどのような物が発掘されたか
- ・ 古墳の特徴から学んでどのようなことが推測できるか
- ・ この古墳の自慢すべき特徴は何か

3. 調査

今回調べる古墳は「**オクマン山古墳**」である。また、オクマン山古墳で発掘された埴輪についても調べていく。

そのため、「オクマン山古墳」「太田市中央図書館」「新田荘歴史博物館」に行つてなるべく多くの情報を集めたいと思う。



資料1 現オクマン山古墳

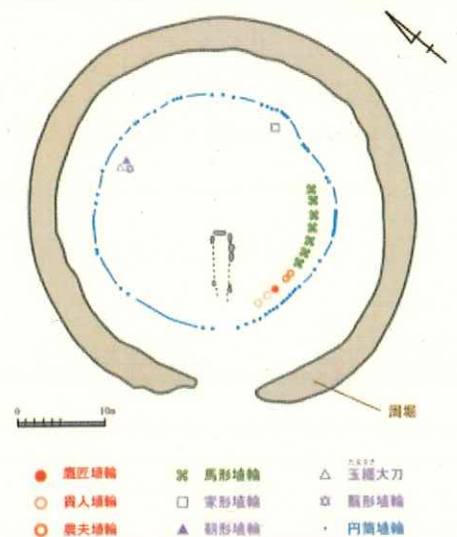
調査前

現地に調べに行く前に、ある程度インターネットを使って調べたのだが、分かった情報や得た資料は、以下の通りである。

- ・ 名前はオクマン山古墳
- ・ 群馬県太田市城西町蛇川親水公園の一部
- ・ 円墳
- ・ 古墳時代後期（6世紀末）のもの
- ・ いくつもの埴輪が発掘

この5つの情報が分かった。このように、位置、場所、時代など、インターネットだけでも沢山の発見があった。

資料2 (オクマン山古墳) より →



また、オクマン山古墳だけのパンフレットもあり、資料2のような資料も得ることができた。まず、名前に関してはパンフレットや地図など様々な場所に書いてあったので間違いはないだろう。次に、場所に関しては現地と同じ蛇川浸水公園内にあり、ピンポイント的な位置はわからないが、おそらくこの位置ではないか、と考える。

この時点のイメージや推測として、「この地域内では、数少ない古墳の一つ」「あまり魅力を感じない」「貴人のお墓？」と考えていた。

しかし、現地に行った後この印象は何一つあっていないことに気付いたのだった。

調査中

まず、「上毛古墳総覧」（資料4）を見るため、太田市中央図書館（資料3）に行った。調査前、インターネットによると、沢山情報が載っていると書いてあったため、この資料を目的にしていった。

しかし、実際に資料はあったものの、「上毛古墳総覧」は単純に古墳とその位置のリストしか書いておらず、古墳について詳しく載っていなかった。そのため、別の資料を探した。結果、予想以上の資料を集めることができた。



資料3 太田市中央図書館

・群馬県古墳総覧2017（群馬県教育委員会）（資料5）

2017年の調査時点の群馬県にあるすべての古墳や古墳跡の位置や情報を詳しく調べることができる。各古墳の情報に加え、古墳を発掘するまで等の情報についても載っている。とても詳しく書かれているため、本は2つに分けられ、重ねると5センチ近くまであり、とても厚かった。

中には、群馬県の古墳分布図というものがあり、オクマン山古墳がある城西町の拡大図があった。調べると、堂原遺跡や新野脇屋遺 群など、オクマン山古墳の半径400m以内に古墳は23箇所あったことが判明した。また、位置を見ると、オクマン山古墳は蛇川親水公園ではなく、今でいう堂原公園にあったことが分かった。これは、つまり調査前に見たオクマン

山古墳の位置とは異なる、ということだ。

・オクマン山古墳（太田市教育委員会）（資料6）

この資料は調査前、インターネットで見つけた資料と同じものである。後ほど新田荘歴史博物館に行き、この資料をもらった。これは、オクマン山古墳だけのためのパンフレットで、オクマン山古墳の説明が非常に詳しく載っている他、発掘当時の写真や埴輪の写真が大きく載っている。

読むと、昭和25年に木暮仁一氏*、昭和45年に太田市教育委員会、昭和48年に群馬県教育委員会、平成12年に太田市教育委員会の計4回の調査をしたようだ。また、現在は開発により、オクマン山古墳の姿を見る



資料4 上毛古墳総覧



ことができないという。墳丘は基壇径36m、封土径22m前後、高さ3m弱の円墳で3段に築造されていたと推定される。また、幅3.5m前後の周堀があり、石室入り口前にはブリッジが認められ、そこから内側に石室へと続く墓道状の彫り込みも確認された。また、埋葬施設は、南西側が入口で、全長8mの横穴式袖無型石室であり、溶結凝灰岩という金山の石を使っていたようだ。石室からは、金銅製耳環や鉄製等装具、人歯などが出土され、人の痕跡があるという。人の遺体は見つかっていない。埴輪の配列は、円筒埴輪が直径約26mの円周上、ほぼ隙間なく並べられていたようだ。また、図のように、鷹匠埴輪や農夫埴輪、馬形埴輪、家形埴輪、器財埴輪などが見つかった。

*木暮仁一～戦後間もない太田市の数々の古墳発掘をした研究者。(鶴山古墳など)

・太田市の古墳(太田市教育委員会)(資料7)

この資料は、太田市の古墳郡がそれぞれ書いてある資料だ。これも、後ほど新田荘歴史博物館に行き、この資料をもらった。オクマン山古墳という書き方ではなく、脇屋古墳郡という規模で書いてあった。「オクマン山古墳」とほぼ同じ情報が書いてあった。しかし、平成12年には、道路建設に伴う発掘調査が行われたようだ。これにより、一時的にオクマン山古墳の姿が明らかにされた。

・群馬のはにわ(群馬県立歴史博物館)(資料8)

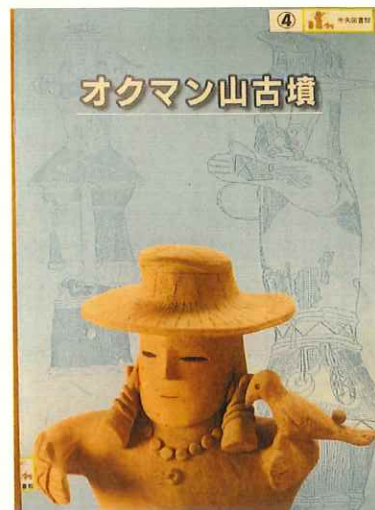
群馬県の埴輪を中心として、沢山の埴輪が分かる資料である。1970年の物で古い資料であるが、写真も大きく見やすい。特に注目したのは鷹匠埴輪だ。服装の特徴について詳しく載っている。鷹が乗っている埴輪は、支配者が狩猟行事をしていたことの象徴だろう、と言えるそうだ。

この4つの資料にオクマン山古墳の情報が載っていた。調べると、意外にオクマン山古墳の情報が載っていたため驚いた。同じオクマン山古墳の情報でも、書いてあることが微妙に違って、理解もしやすく、参考になった。資料を読んで知識を得た後、つぎは、「新田荘歴史博物館」(資料9)へ向かった。

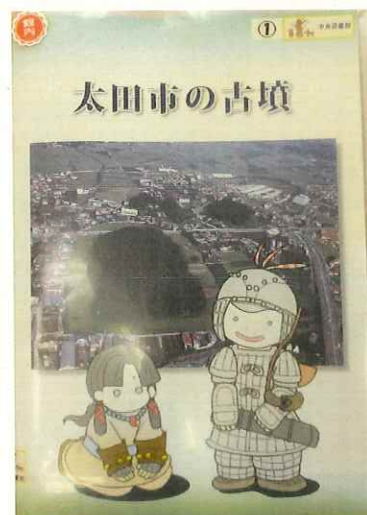


資料9 新田荘歴史博物館

資料5 群馬県古墳総覧



資料6 オクマン山古墳



資料7 太田市の山古墳



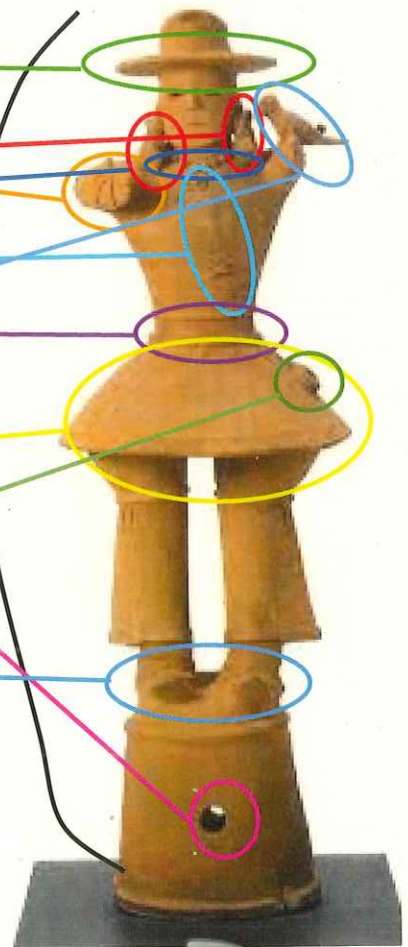
資料8 群馬のはにわ

オクマン山古墳から、徒歩11kmに位置する新田荘歴史博物館。車で約20分で行ける。様々な埴輪の展示の他に、原子・古代、中世、近・現代の展示も数多くあり、周辺には、国指定重要文化財に登録されている、世良田東照宮などがあり、とても楽しめた。この博物館では、オクマン山古墳から出土した埴輪が合計8点展示されていた。そこで気付いたのが、「事前に見るものについて調べてみると普通に見るよりも面白いということ」や「細かいディテールが分かって面白いこと」ということで、とにかく楽しく、写真以上に学べるのが印象に残りました。そこで注目したのが、「鷹匠埴輪」「飾り馬」の2つだ

鷹匠埴輪（資料10）

資料10 鷹匠埴輪

- ・ 太田市指定重要文化財
- ・ 高さ147cm
- ・ つばが大きい帽子
- ・ 手には手袋のような紐
- ・ 方まで垂らした美豆良を結っている。
- ・ 首には石のネックレスのようなもの
- ・ 服はVの字の線の入ったもの（袴?）
- ・ 腰には帯
- ・ 肩には鈴が背中についた鷹がのっていた
- ・ 台座は前、後、右、左、それぞれに穴が空いていた。
- ・ 腰の部分から急に太くなる
- ・ 下半身が上半身と比べて長い
- ・ 線対称
- ・ 靴も履いている
- ・ 腰には餌籠もかけている
- ・ この埴輪だけのマスコット「たかじょうくん」がいる
- ・ 新田荘歴史博物館には鷹匠埴輪のクリアファイルが売っている。
- ・ 鷹匠埴輪は全国的に珍しく、海外でも紹介されている



資料11 たかじょうくん

4. 推測

ここまでの情報をヒントとして、更に考えられることを推測していきたいと思う。

- ・現在と過去でオクマン山古墳は違う場所にある。
- ・堂原遺跡群や新野脇屋遺跡群に属していた。
- ・今はなくなってしまったが、元々は幅広い周堀や立派な墳丘などがあった。
- ・数々の身分、動物、道具などの埴輪が発掘された。
- ・オクマン山古墳の埋葬施設には、金山の石も使われた。

2022年現在の地図で表示されているオクマン山古墳と「群馬県古墳総覧2017（群馬県教育委員会）」で見たオクマン山古墳の位置が異なる。つまり、現在僕たちが見るオクマン山古墳は復元されたものだと考えられる。

堂原遺跡群や新野脇屋遺跡群には、沢山の古墳があった。が、資料を見ても、オクマン山古墳以外の古墳については、非常に情報が少ない。まずここで推測できることは、オクマン山古墳のタフな面・忘れられない点だろう。沢山の古墳が消滅している中、オクマン山古墳はそれをしのいで、復元されたり、埴輪が大切に保管されたりしている点はその証拠だ。

古墳の姿や見つかる古墳から見て、オクマン山古墳は有力な支配者だったといえる。まず、支配者という点から。古墳は支配者の他に貴人のものなどの可能性もある。では、なぜ支配者と予想したのか。その一番のヒントは鷹匠埴輪だろう。鷹狩は支配者の象徴である。また、鷹匠埴輪は全国でも珍しい。そのため、オクマン山古墳は全国でも限られた中の人一人だったとも考えられる。更に、見つけられる埴輪には農夫や馬、家形のものなど、様々な物を支配していたのではないかと予想できる。一つの貴人の埴輪には、台座と上部の人物部分の工具の跡が異なっている。これは、作業の分業制を表す可能性があると考えられる。

鷹や馬の埴輪から、行事として狩猟行事を大切にし、馬や鷹を飼い慣らしていたことが分かる。

金山の石が使われていた、ということは、金山の地域と活発に交渉していたことが分かる。

5. 結論

Q. この古墳はどんな古墳でどのような物が発掘されたか

- A. オクマン山古墳は、6世紀後半の円墳で、新野脇屋地域の古墳群の中核をなす古墳である。オクマン山古墳では、全国的に珍しい、鷹匠埴輪をはじめとする、様々な身分、動物、道具の埴輪が発掘された。

Q. 古墳の特徴から学んでどのようなことが推測できるか

- A. 見つかった埴輪、古墳の状況から見て、オクマン山古墳のは有力な支配者の物だと推測できる。また、武力等のため、動物は生活に深く関わりを持っていたと考えられる。更に、他の地域とは友好的な関係を持ち、活発に交渉していた。

Q. この古墳の自慢すべき特徴は何か

自慢すべき3点

1. オクマン山古墳から発掘された「鷹匠埴輪」は全国的にも非常に珍しい！また、形状が左右対称で、美しいとされ、海外にも紹介されている。
2. この新野脇屋地域の有力な支配人のもの！狩猟行事などを行い、限られた支配者の中の一人であったことが推測できる！
3. 本来の姿は消滅してしまった。が、復元される。それほど、忘れられない！

6. 今後の課題

今回分かったことの他に、分かったことから生まれたさらなる疑問が見つかった。

- ・オクマン山古墳以外で脇屋古墳群の古墳はどのようなものだったか。
- ・実際に脇屋古墳群の存在を知っている人はどれだけいるか。

7. 感想

今回は近所にあるオクマン山古墳について調べ、推測して、自分なりに感じた魅力を考えてみた。自分の中では、よく知っている近所に沢山の歴史が残っていることを知って楽しめたと思う。また、自分が感じた楽しみや魅力などを広めていき分かち合っていきたい。

この調査の前、僕はあの山が古墳だったことを知り、興味が出たのを覚えている。その時、まさか、と思ったのだが、調べていくうちに発見があった。最初、自分の住む町に見どころを感じられなかった僕がいずれか、古墳、埴輪、推測といろいろ調べていくうちに自然と僕達の地域に深さと誇りを感じられるようになってきた。しかし、近所でもこの魅力を知っている人は限られた人だけだ。もし、知っていたとしても、「ただの山じゃん」など、古墳について興味を持ってくれない人が多いと思う。確かに、エジプトのピラミッドほどの迫力や、ペルーのマチュピチュほどの謎が浮かばないかもしれない。しかし、古墳の身近さや埴輪の多様性など、古墳はただ歴史を知るだけではなく、近所を知る一歩だと僕は考えている。

もっと古墳を身近に感じてもらうため、「あれは〇〇古墳」という認識を持ってほしい。僕も同じパターンなのだが、古墳の存在に気付くだけで、自然と「どんな古墳だったのか。」「自慢できるかも…」と興味を持ってくれると思った。そして、興味をもったら、絶対にやってほしいことは、「博物館に行って実物を見る」ことだ。本やインターネットで見る以前に、大きさや細かい点など自分の目で見てほしい。そうすると、「デカッ」「あんなところに〇〇が」など面白さは更に増す。このフィーリングをもっと多くの人に感じてほしい。

古墳の存在に驚いて始まったわずか1ヶ月の研究。この短い期間でも沢山のワクワクするフィーリングを得た。そんな僕は近所でもあの古墳を知っている数少ない人の一人だ。その一人として、僕は古墳の深さや埴輪の面白さ等をシェアする責任を背負っている。これからも古墳や埴輪に積極的に目を向けて、古墳や埴輪のアイデアを広めたい。そして、そのアイデアを自分の外へ、沢山の人の人に広めて行きたい。

8. 参考文献

<サイト>

- ・横穴式石室解説書

https://www.media.gunma-u.ac.jp/content/files/announce/clib/ozaki_D_21.pdf

- ・オクマン山古墳

<https://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0170-009kyoiku-bunka/kankoubutu/files/okuman.pdf>

- ・古墳マップ <https://kofun.info/kofun/4876>
- ・遺跡見てある記 <https://homepage.obunko.com/iseki/index.htm>
- ・朝日群馬 https://www.asahigunma.com/kyodonootakara_14/

<資料>

- ・群馬県古墳総覧2017（群馬県教育委員会）
- ・オクマン山古墳（太田市教育委員会）
- ・太田市の古墳（太田市教育委員会）
- ・群馬のはにわ（群馬県立歴史博物館）